

奥州遺産

No.76

ときを越え
受け継がれるもの

木造孝養太子立像(安祥寺)

Ⅱ 衣川区平 Ⅱ

衣里小学校から南西に約1・5キロ、
小高い丘の上にたたずむ安祥寺に、木
造孝養太子立像は安置されている。

日本仏教の開祖として信仰を集めた
聖徳太子は、超人的な人物として伝記
などに描かれる。その逸話を元に、幼
少から成年までさまざまな姿の像が作
られ、礼拝の対象になっている。

この像は、父である用明天皇の病氣平
癒を祈り、香炉を手に病床を見舞う16歳
の太子を像にしたものである。明治5
年に安祥寺と同じ真宗大谷派の光照寺
Ⅱ福島県会津坂下町Ⅱにあったことが
確認されており、当初から衣川に伝承
するものではないが、庶民の太子信仰
を伝える中世像として価値は高く、平
成元年に旧衣川村の有形文化財として
指定を受けた。

民衆の信仰を広く集めた木造孝養太
子立像。その瞳は、今も静かにこの地
を見守っている。

広告



1



2



1 高さ 95 cmの像はカツラ材の
一木造で室町時代後期の製作
2 安祥寺の本堂。寺の歴史に
ついて記録は残されていない
が、平安時代後期の武将・三浦
大介義明の子孫である三浦阿
闍梨によって文化文政（1804
～ 30 年）の頃に開かれ、この
地の三浦一族が寺を支えてき
たと語り伝えられている